

第15回日本気象学会夏季特別セミナー（若手会夏の学校）の報告

第15回夏の学校実行委員会*

第15回日本気象学会夏季特別セミナー（若手会夏の学校）は、2003年7月19日（土）から21日（月・祝）までの2泊3日の日程で、京都府船井郡園部町の京都府立り湊少年自然の家において、京都大学が主幹となって開催されました。京都大学が主幹となったのは今回で3回目となります。会場は、国土交通省の深山レーダーが近くにあり、淀川の源流が傍を流れているような、自然に囲まれた場所でした。

参加者は総勢149名で、例年に比べて多数の女性の方に参加していただきました。また学部生や修士学生を中心とした年齢層が多い(学部生：17%，修士：48%，博士：24%，その他：11%)という傾向がありました。

期間中に行われた講演を以下に記します。

■招待講演 (90分/1人：4件)

廣田 勇 (日本気象学会理事長・京都大学名誉教授)
「ロマン主義気象学—重力波に見る風と波のドラマ」

里村雄彦 (京都大学理学研究科助教授)
「非静力学モデルを巡る話」

酒井 敏 (京都大学人間・環境学研究科助教授)
「地球流体実験」

堀之内 武
(京都大学宙空電波科学研究センター助手)
「低緯度の様々な大気波動にまつわる力学の話/これからの気象学におけるコンピューティング (のあり方の一つ)」

■一般講演 (15分/1人：16件)

梶川義幸 (名古屋大学地球水循環研究センター)
「夏季アジアモンスーン域における季節内変動の変調」

* 穂積 祐 (実行委員長), 久保田拓志, 手柴充博, 西澤誠也, 濱田 篤, 日尾泰子, 廣田伸之, 横井 寛, 吉野 純 (他京都大学気象関係者有志)

e-mail: ymss2003@kurasc.kyoto-u.ac.jp

© 2003 日本気象学会

寺尾 徹 (大阪学院大学情報学部)

「バングラデシュにおける対流活動と循環場の日変化の研究」

篠田太郎 (名古屋大学地球水循環研究センター)

「中国大陸上湿潤域における大気境界層の発達と対流雲の発生, およびそれに伴う環境場の変化」

内藤陽子

(京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻)

「成層圏突然昇温現象の研究における物量作戦の提案」

他12名

■ポスターセッション (90分：27件)

27件の発表を2分割し、質疑応答のためのコアタイムはそれぞれ45分としました。

廣田先生には、重力波研究の発展の歴史と現状、そして先生がどのように関わってこられたかを話していただきました。ロケット観測から重力波の解析をされた80年代の研究から始まり、重力波が背景場に及ぼす役割を特に赤道の準二年周期振動を例にとりて説明していただきました。また、最近の南極観測についても触れて下さいました。「重力波」というひとつの研究テーマを通して、研究の発展に関わっていくことの面白さ、その過程で得られていく世界の研究仲間との切磋琢磨の大切さを教えていただいたように思います。

酒井先生には、さまざまな実験器具を用いた地球流体実験を行っていただきました。振り子を用いたコリオリ力および慣性振動に関する実験やスケートのスピンを念頭に置き、回転台を用いた角運動量保存則に関する実験、回転水槽を用いた傾圧不安定の理解と波動の形成に関する実験をしていただきました。また実験の合間には、さまざまな実験を数多くされている先生自身の研究に対するスタンスや現状などを興味深く話していただきました。

里村先生には、非静力学モデルの歴史と現状について説明していただきました。スーパーセルや海陸風等

の研究を紹介され、シミュレーションの例として、タイでの降水日変化や南極大陸のカタバ風を再現したアニメーションを示していただきました。また非静力学モデルの課題として降水の量的再現とスキームの保存性を挙げられ、地球シミュレータなど計算機が高性能化する中で、これらの課題に若手研究者が挑戦することへの期待を話していただきました。

堀之内先生には、修士課程から現在までの研究やその動機について、年代順に紹介していただきました。波動の励起源と伝播現象の探求という一連の研究の一例として、大気大循環モデルを使って赤道下部成層圏に存在する準二年振動の駆動源を調べた研究や、メソスケールモデルを用いて積雲対流が引き起こす大気重力波を中間圏までシミュレーションした研究を説明していただきました。またデータ解析や数値計算に役立つプログラミング言語 Ruby の利点や期待について教えていただきました。

一般講演・ポスターセッションでは多くの議論をしていただく為に、申込受付期間中や受付期間後に、積極的に講演依頼の活動を行いました。その結果、例年以上の講演応募を受け、議論が活発に行われた感があります。特に宿泊部屋を講演室とした会場では、少人数で近距離の議論がなされていたと思います。しかしアンケート結果では、質問時間がもっと欲しいという意見が多数あり、スケジュールの設定の難しさを痛感しました。

交流イベントとしては、研究室紹介（団体も含む）やバーベキュー、立食パーティーを実施しました。研究室紹介では20余団体からの紹介をしていただきました。これは、参加者がお互いを知ってもらうよう、例

年行われているものです。各団体とも短い時間の中で工夫しながらアピールをしている様子が伝わってきました。またバーベキューを行うにあたって空模様が心配されましたが、雨に降られることもなく無事に終わることができました。

今回の特徴としましては、参加人数が過去に例が無いほどの大人数となったことが挙げられます。これは、参加費を抑えたことや環境が良く大人数が集まれる施設であったためだと考えられます。またメーリングリストやホームページを作り、特に web 上にて申し込みを行い作業量の軽減化を図りました。講演における特徴としましては、研究室紹介や講演発表時にプロジェクトでの発表がほとんどであり、写真や動画を効果的に活用した発表が多くなったことが挙げられます。

2004年度の日本気象学会夏季特別セミナーは、東北大学へ引き継ぐことになりました。今回の夏の学校では、招待講演で気象学の第一線の研究にふれることができ、また普段会う機会が少ない、他大学・団体の若手研究者の方と交流することができたと思います。今後とも、参加者と運営側が一体となつていい雰囲気を作りだし、夏の学校が一層盛り上がることを願うばかりです。

最後に、参加していただき夏の学校を盛り上げ運営作業に労力を提供してくださった皆様、このような企画の機会を与えてくださった日本気象学会関係者および講演企画委員会の皆様に心より御礼申し上げます。なお、夏の学校を開催するにあたり日本気象学会講演企画委員会より援助をしていただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

新刊図書案内

表 題	編 著 者	出 版 者	出版年月	定 価	ISBN	備 考
中国・四国地域の農業気象	日本農業気象学会中国・四国支部	農林統計協会	2003.09	¥2,500	4-5410-3095-0	

注：表中で定価はすべて本体価格です（特記したものを除く）。